

和白干潟を守る会

2005年度活動報告

2006.2.25 和白干潟を守る会事務局

活動方針 1. 和白干潟での自然観察会をお世話し、多くの市民、特に子どもたちに自然の大切さを伝えることを通して、自然保護の機運を高める。

1. 和白干潟自然観察会

5月に和白干潟自然観察会の案内状とパンフレット「環境教育シリーズⅠ・Ⅱ」を、福岡市内および周辺自治体の小学校・保育園と公民館・市民センターなどに送付した。

2005年度中(1月～12月)にお世話した観察会は次の通り。保育園3回119名、小学校4回382名、中学校3回197名、高校4回345名、大学4回69名、合計1112名。その他に大人のグループや海外からの訪問者など154名の見学をお世話した。(人数はすべて延べ)。また守る会主催の観察会を2回開催し、延べ52名の参加があった。それらを合計すると2005年度に1266名の観察会・見学をお世話したことになる。

2. 第9期和白干潟自然観察ガイド講習会

和白干潟での自然観察会のガイド養成・研修のため、8月と10月に全2回の第9期自然観察ガイド講習会を開催した。

第1回 講師・古賀庸憲氏 カニたちの愉快的な行動 20名参加

※ 夜の観察会： 13名参加

第2回 講師・清野聡子氏 和白干潟をつつむ海と陸の探検 21名参加

3. 第17回和白干潟まつり

11月27日(日)に毎年恒例の干潟まつり(第17回)を開催した。主催は、グリーンコープ生協ふくおか 福岡東支部と和白干潟を守る会で構成される「和白干潟まつり実行委員会」。参加者は約400名。

4. 和白干潟クリーン作戦と自然観察(毎月第4土曜日)

毎月第4土曜日午後3時から5時まで、海の広場からアン原付近を中心に清掃活動・自然観察を12回、水質調査を12回実施した。各回14～65名参加、延べ283名。ゴミ袋は各回20～177袋。粗大ゴミは、アキグミの切られたのが唐の原川の滞筋に多くあった。アオサも回収した。回収ゴミは年間総数1252袋。6月は12日(日)のラブアースクリーンアップに参加、定例クリーン作戦の2回清掃した。4月23日は干潟を守る日・春のビーチクリーンアップに、9月24日(土)には国際ビーチクリーンアップに参加した。

定例のクリーン作戦以外でも清掃を行った。参加者延べ79名でゴミ袋総計1025袋。

5. ラムサール条約登録をめざして

(1) パンフレット「ラムサール条約と和白干潟」発行(8月)

和白干潟は2004年9月に全国54カ所の登録候補地の一つに選ばれた。これを機に和白干潟をよりよく知ってもらい、登録への機運が高まるように願ってパンフレットを作成した。内容はラムサール条約の解説、国内の登録地、和白干潟の紹介等。1500部発行し、会員、関係各方面に配布し、希望者にも頒布している。

(2) ラムサール応援企画「和白干潟を歩こう！ 和白干潟探検隊」(5月)

嶺井久勝氏(底生生物)・神野展光氏(植物)を講師に和白干潟を歩きながら観察する会を実施し、45名の参加があった。

活動方針2. 和白干潟の大切さとその変わりつつある姿を、広く社会に訴えるため、和白干潟およびその周辺の生物の調査に力を入れる。

6. 調査

2004年に引き続き4月25日にブイを使った和白海域の潮流調査を行なったが、浅海であるのと風や流入する河川水の影響があり、調査は進まなかった。今後の継続が課題として残された。

また、以下の調査に協力した。

1月 和白海域水鳥調査(日本野鳥の会福岡支部・IWRB国際水禽湿地調査局)

1~2月、12月 モニタリングサイト1000 冬季シギ・チドリ調査(環境省・WWFジャパン)(3回実施)

4月~5月 モニタリングサイト1000 春季シギ・チドリ調査(環境省・WWFジャパン)(3回実施)

8月 五丁川生き物調査(福岡市港湾局)

8月~9月 モニタリングサイト1000 秋季シギ・チドリ調査(環境省・WWFジャパン)(3回実施)

9月 ゴミ内容調査(国際ビーチクリーンアップ)

なお毎月1回、水質調査を実施した。

活動方針3. 悪化しつつある和白干潟の環境を保全するため、博多湾人工島計画の凍結・縮小を含めた和白干潟保全策を市民や関係機関に訴える。

7. 和白干潟通信

1・4・7・10月に「和白干潟通信」を計4回(No. 73~76、各4200~4500部)発行した。毎号B5判8ページで和白干潟に関する情報を発信している。配布先は、会員、マスコミ・行政関係、和白干潟周辺の家庭。各号につき数回の編集会議を開いて作成した(編集委員は5名)。発送作業はみんなで行なった。手配りでは、和白・奈多・美和台・高見台・唐の原・香住丘・御島崎・香椎の家庭に配布した。

8. 和白干潟を守る会ホームページ <http://www.bekkoame.ne.jp/~miyakodori/>

会の活動や和白干潟の生物などに関する情報を発信している。2005年3月に前任者から2名で引き継いだ。しかし不慣れで苦勞しているので、協力者を募っている。

9. その他の広報活動

(1) 情報の発信

新聞や雑誌、他団体の会報等に会の活動予定や鳥情報を発信した。雑誌等に和白干潟を紹介する文章を寄稿した。東区役所と東市民センターとコミセンわじろに「クリーン作戦と自然観察」のお知らせポスターを毎月掲示してもらい、和白干潟通信も常時置いてもらっている。東区内の公民館、和白丘の亀の井ホテル、喫茶「ほっと」、藍の家、ハローデイなどにも和白干潟のパンフレットや通信を置いてもらっている。

(2) 講演等

福岡県中小企業同友会地球環境問題委員会の依頼により和白干潟の自然や守る会の保護活動についての講演を行なった。(7月)

(3) 取材協力

新聞社、テレビ局、ラジオ局、雑誌などからの取材に協力した。特に2006年1月と2月に放映されるNHK「さわやか自然百景 福岡 和白干潟」の取材に全面的に協力した。

10. 対外協力・参加活動、働きかけ

(1) 和白海岸定例探鳥会(野鳥の会福岡支部)に協力・参加。毎月第2日曜日、計12回。

(2) 「人工島・住民投票条例を求める会」の要請による「人工島・住民投票条例制定を求める署名」運動に協力し、392名の署名を集めた。

(3) 他団体のイベント(「ひがし区ボランティアのつどい」「南畑ダム貯水する会の勉強会」「ラムサールのこころ」など)に参加した。

(4) 意見書送付・アンケート回答

他団体や行政などの依頼により、環境問題や環境教育についての意見書を作成したりアンケートに答えたりした。

(5) 塩浜護岸工事について、福岡市長あてに2回要望書を提出し、3回説明会を開いてもらった。

8/17 福岡市港湾局から、平成18年度工事予定の「塩浜地区護岸築造工事(その4)」についての説明会。9/21 守る会より福岡市長へ「工事に関する要望書」を提出。10/13 福岡市長より「要望書に対する回答」を受領。10/27「要望書に対する回答」について、港湾局の説明会。10/27 再度「要望書」を提出。12/14 守る会提出の「要望書」についての福岡市港湾局の回答説明会。

(6) 和白干潟のアオサの件で港湾局に連絡し、アオサを回収してもらった。

11. 定例会議・総会(毎月第4土曜日)

毎月原則として第4土曜日、守る会事務所で「定例会議」を12回開催。そのうち2月は「総会」として開催した。出席者は各回8~16名。総会で活動方針を決めるほか、会の活動に関する重要な事項は定例会議で審議して決定した。

12. 販売・贈呈

観察会に来た学校・公民館等に和白干潟の写真集・ラムサールパンフを贈呈した。また、写真えはがき、きりえはがき、絵本『ひがた だいすき!』、他団体の出版物なども委託販売したり、贈呈したりした。

13. 助成

(1) イオン環境財団助成金

2004年11月から2005年10月まで(1年間)、和白干潟の保全と環境教育活動のために130万円の助成を受けた。

14. 寄付・寄贈

(1) 会員や一般市民の方々から干潟まつり、観察会、望年会オークションの折などに、合計33万5000円のカンパが寄せられた。